

在韓日本大使館公報文化院リポーター訪日団 招へい事業の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】「対日理解促進交流プログラム」の一環として、在大韓民国日本国大使館にて選抜された大学生・社会人等を招へいし、「日韓交流おまつり 2024 in Tokyo」のブース運営を通じて、様々な世代の日本人との交流及び意見交換を行うと共に、各種視察、日本の同世代との交流、ホームステイ、テーマに沿った講義聴講等を通じて、日本に対する理解を深めることで、今後の日韓間の相互理解と信頼関係増進の基盤強化に寄与することを主目的とする。

【参加者】韓国の大学生及び社会人等（団長1名含む） 合計10名

【訪問地】東京都、富山県、岐阜県、愛知県

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習事）：

9月19日（木曜日）オリエンテーション（プログラム説明）、参加者による対外発信

■ 招へいプログラム：

9月27日（金曜日）羽田国際空港から入国、【講義】外務省「新しい日韓関係について」、
来日時オリエンテーション

9月28日（土曜日）Aグループ：【交流】「日韓交流おまつり 2024 in TOKYO」ブース運営参加を通じて
日本の一般市民との交流（大学生訪韓団同窓組織メンバーと共同運営）

Bグループ：「日韓交流おまつり 2024 in TOKYO」取材、【視察】李秀賢氏追悼・顕
彰碑含む新大久保フィールドワーク

9月29日（日曜日）Bグループ：【交流】「日韓交流おまつり 2024 in TOKYO」ブース運営参加を通じて
日本の一般市民との交流（大学生訪韓団同窓組織メンバーと共同運営）

Aグループ：「日韓交流おまつり 2024 in TOKYO」取材、【視察】李秀賢氏追悼・顕
彰碑含む新大久保フィールドワーク

9月30日（月曜日）富山県高岡市へ移動

【企業訪問・テーマ講義】日経 MJ 賞最優秀賞受賞「SEKAI HOTEL 株式会社」、
講義：「まちごとホテル」で地域商店街活性化

【テーマ視察・交流】講義に沿った視察・商店街取材及び地元の方々と交流

10月1日（火曜日）岐阜県郡上市へ移動

【講義】ホームステイエリア・郡上の地域活性化策について

【交流】ホームステイ対面式、ホームステイへ

10月2日（水曜日）ホームステイ解散式、愛知県名古屋市へ移動、【視察】リニア鉄道館、成果報告会

10月3日（木曜日）中部国際空港から出国

2. 記録写真



2024 年 9 月 27 日【講義】外務省「新しい日韓関係について」



2024 年 9 月 28 日【交流】「日韓交流おまつり 2024 in Tokyo」で「韓國の若者と語ろう」ブース運営



2024 年 9 月 29 日【交流】「日韓交流おまつり 2024 in Tokyo」を共同運営した JKAF メンバーと共に



2024 年 9 月 30 日【講義】富山県高岡市「まちごとホテル」で地域商店街活性化



2024 年 10 月 1 日【交流】岐阜県郡上市でホームステイ対面式



2024 年 10 月 2 日【視察】愛知県名古屋市「リニア・鉄道館」(リニア走行体験)

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 韓国 大学生

「日韓交流おまつり in Tokyo」では、JKAF（大学生訪韓団同窓組織）の皆さんと交流しながらブースを運営し、ブースにお越しになった老若男女様々な一般の日本市民の皆さんと、また高岡では商店街の方々と、郡上ではホストファミリーの皆さん等、多くの日本の皆さんと交流しながら、日本語で自由に対話できたことが貴重な経験となり、とても良かった。直接の対話を通じて、様々な面においての日韓比較もすることができ、日本の文化や社会についても多くのことを学ぶことができた。

◆ 韓国 大学生

今回の訪日で、JKAF という日本の友人、ホームステイを通じて日本の家族ができ、とても幸せな訪日団となった。今回の訪日団では満足できるくらい様々な日本の方々と交流したが、これらの交流を通じて、いかに日本の方々が韓国のことを愛してくださっているか実感できたし、また予想以上に韓国語ができる日本の方々、韓国語を学ぶ日本の方々が多く驚いた。私たちを通じて、日本の方々にも、私たちの日本への思い等を感じていただければと思う。このような交流の積み重ねが、今後の日韓関係においてとても重要なものになると思うので、今回できた日本の友人と家族との交流を継続していきながら、周りにも波及していくよう努めていきたい。

◆ 韓国 社会人

日本で出会った全ての方々が、些細な部分まできめ細かくケアしていただき、とても感動した。このような日本の方々の姿を、より多くの韓国の若い世代が感じ取り、共に未来へ向け美しい日韓関係を築いていければと思う。

◆ 韓国 社会人

今回の訪日では、数々の交流を通じて日本人の新たな面に触れることもでき、初めて訪れる地方都市でも数々の新たな日本の姿を知ることができ、多くの学びを得ることができた。中でも、高岡の地域活性化について学んだ時に、「ブルー」を高岡のイメージカラーとして、「様々なブルーを探しに高岡の街へ繰り出そう」という発想が斬新だった。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ JKAF（「日韓交流おまつり in Tokyo」で共にブースを運営した大学生訪韓団同窓組織）

訪韓団として韓国に行った経験で終わりではなく、それをきっかけに今度はボランティアとして訪日団の方と関わりながら「日韓交流おまつり」という日韓交流の場に携わるという機会が、私たちにとってさらに有意義で貴重な経験になった。訪日団の皆さんと運営した「韓国人と語ろう」ブースでは、普段得がたい文化体験や交流によって、日韓関係の繋がりがさらに深まったように思う。

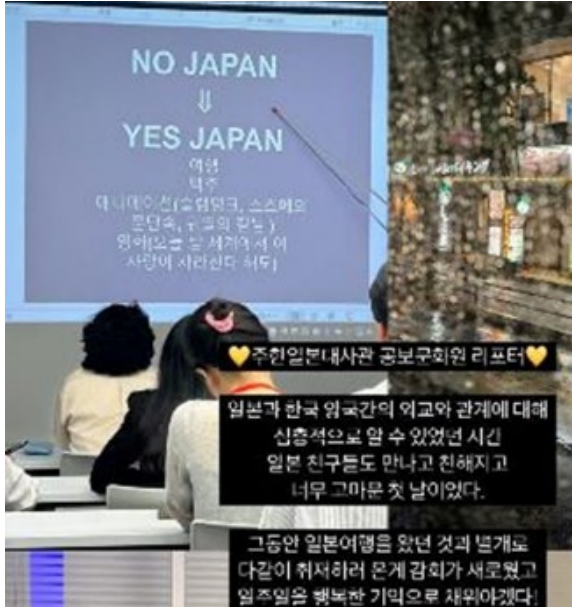
◆ 高岡視察先関係者

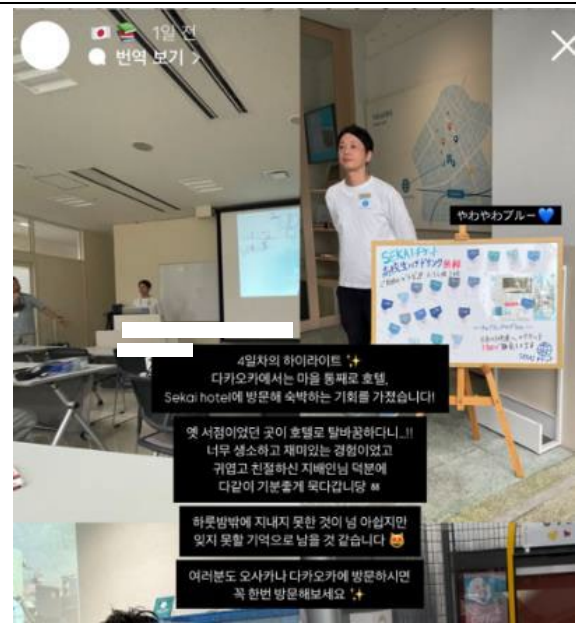
この度は、わざわざ高岡までお越しいただき感謝申し上げたい。海外からのこのような視察は初めての機会でもあり、良い経験をさせていただいたと思っている。今後また機会がいただけるようであれば、今回の経験を活かし、よりスムーズにご案内もできると思うので、是非改めて高岡にお越しいただければと思う。

◆ 郡上市ホームステイ受け入れ家庭

1泊2日という短い時間あったが、一緒に釣りをしたり、料理を作ったり、夜は肝試しに、花火、夜空を見たりして、とても喜んでいただけたように思う。言葉も通じたので、様々な話題で語り合うこともでき、交流も深まった。近々韓国へ行こうと思っているので、その際には今回受け入れた皆さんと再会する約束もした。ソウルでの再会が楽しみである。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

	
2024 年 9 月 27 日 (Instagram) (外務省「新しい日韓関係」の講義について) 日本と韓国の間における外交をはじめ様々な関係について深く学べた時間。 日本の友人とも出会って仲良くなり、とてもありがたい初日だった。 今回は在韓日本大使館公報文化院リポーターとして、他のメンバーとみんなで取材しに訪日できたことが感慨深く、一週間幸せな思い出ばかりで埋め尽くしたい。	2024 年 9 月 28 日 (Instagram) 取材の一環として、新大久保の李秀賢氏の顕彰碑に行った。2001 年新大久保駅で人命救助のため命を落とした李秀賢氏の犠牲精神は、国境を越え今でも多くの方々の模範となっている。 いつも耳にはしていたが、実際に新大久保駅を訪れ、日韓両言語で刻まれた顕彰碑を見ると、その崇高な精神に触れることができたような気がする。歴史に名を残すような行動をするのは難しいかもしれないが、小さなことから人類愛を実践する社会の一員になりたいと思えた、意味深いひと時となった。



2024 年 9 月 29 日 (Instagram)

9 月 28 日から 29 日まで「日韓交流おまつり in Tokyo」が駒沢オリンピック公園で開催されました。私たちは「韓国の若者と語ろう」ブースを JKAF の皆さんと共に運営し、来場者の皆さんと日韓の様々な興味深いテーマについて語り合いました。K-POP や K-ドラマの人気を実感できたし、韓国では当たり前のことでも日本人にとってはそうではないという文化の違い等も学びました。様々な話題について話し合えたお陰で、両国の文化をより深く理解することもでき、慣れ親しんだものを客観的に見るという、人類学的インサイトを体験できた貴重な経験となりました。

2024 年 9 月 30 日 (Instagram)

訪日 4 日目のハイライト、高岡の「まちまるごとホテル」SEKAI HOTEL Takaoka を訪問し、宿泊する機会をいただきました。

元々は書店だった建物をホテルにリニューアルするなんて、全然聞いたこともないユニーク取組で、親切な支配人のお陰で心地よい滞在となりました。皆さんも高岡にお越しの際は、必ず訪れてみてください。



2024 年 9 月 28 日（TBS NEWS DIG） 「日韓交流おまつり in Tokyo」が都内で開幕した模様を報道する中で、本団団員がブースを運営する様子も紹介された。	2024 年 10 月 1 日（北日本新聞） 『韓国の若者 地域再生学ぶ 書店改修した宿泊施設視察「デザイン面白い」』の見出しで、本団が富山県高岡市の地域活性化事例を視察する様子を団員へのインタビューも含めて紹介された。
---	--

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（概要または抜粋を記載する）

[illegible]

【成果の発表】 ・訪日団の活動を通じて、日本文化と社会について深い理解を得ることができた。 ・中でも「日韓交流おまつり in Tokyo」の運営と交流を通じ、日本人の日常の中から多くの学びや発見があった。 ・特に、交流する際の日本人の振る舞いと繊細な意思疎通の仕方が印象的で、日本の文化を深く理解できる良い機会になった。 ・今回の経験は私たちの今後の活動全般において大きな影響を及ぼすことになると思うし、その経験を生かして日韓両国の文化をより深く理解できるようなコンテンツを制作したり、両国の若者間の文化交流増進のための様々なプロジェクトにも積極的に参加していきたい。 【アクション・プラン】 ・訪日団で取材した様々な内容を、多様なジャンルのコンテンツとして制作し、SNS 等を通じて積極的に広報していく。 ・李秀賢氏のような日韓両国に知られている義人を探し出し、コンテンツを制作して、皆さんに知っていただくよう広報する。 ・今回の経験で得た日本の生活文化をはじめとす	【成果の発表】 ・外務省講義を通じて日韓交流の流れを知ることができ、過去と現在、未来の日韓文化交流を考えるようになり、いかに両国の関係をよりよく維持していき、共に成長していくかを考える良い機会になった。 ・「日韓交流おまつり in Tokyo」を JKAF と共に運営することにより、同じ目標に向けて共に努力したという成就感を得ることができ、多くの方々と対話することにより日本の文化についてより深く知ることができた。 ・「SEKAI HOTEL Takaoka」の取組を聴き、実際に宿泊して商店街を取材することにより、その方向性についても体感することができ、地域と共に成長していくための方法について考えるきっかけとなった。 ・郡上でのホームステイでの様々な体験を通じ、日本の生活文化への理解度が深まった。 ・リニア鉄道館では、日本の鉄道技術の過去・現在・未来について知ることができ、交通等生活と密接した技術を体験することにより、今後成長していくこれからの日本の姿を見ることができた。 【アクション・プラン】
---	---

る現地ならではの情報を幅広く集め、周りの人々に伝えていき、在韓日本大使館公報文化院リポーターとしての経験と知識をしっかりと身に着けたリポーターとして成長する。	・ 訪日団で体験した内容を様々なチャンネルを通じて、意味あるコンテンツに作り上げて発信していく。 ・ 今回の体験内容を団員各自の専門性に符合させながら、各自の活動に活かしていく（イラストレーターとして今後の創作活動に活用、日本文化について人類学的研究に活かす予定等） ・ 日本語能力向上のため日本語能力試験に挑戦する。
--	---

実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金